

日々 往来



田口 哲也

子供の頃、好んで聞いた洋楽のひとつが「サンホセへの道」。大都会での生活に疲れ果て帰郷する少女の心を、ソフトなメロディーに乗せた60年代の名曲である。

牧歌的な癒やし心地であったはずのサンホセが、世界のITのメッカ、シリコンバレーの中心都市サンノゼのことだと気づいたのは、かなり後、出張で彼の地を訪れてからだった。

サンノゼでは、組織や肩書にとらわれない人のつながりが盛んなことが随所で感じられた。また、

サンホセとサンノゼの間

徒歩や自転車での移動をターンの希望者の調査(総好む若者も多いため、80 務省等)で、長野・新潟・年代半ば以降、地域ぐる 石川・富山・静岡・兵庫とみの中長期的プロジェクト いった東京・大阪からテトを通じて、市内のバス クセスの良い地域の人気・電車やサンフランシス が高まっていることにもコヤスタンフォードと結 符合するかもしれない。ぶ通勤・通学路線が整備 ふと、鳥取を顧みて、され、人の交流が盛んに 「車を持たない若者が、なったことも、先端技術 まちの中心部と大学などや企業の集積に大きく寄 との間をいつでも自由に与したようであった。 行き来できるようになら

最近、わが国でもよう ないか」とか、「県内かやく、「インターネット ら1〜2時間で到達できが当たり前の情報革命の る主要都市が広がれば、時代だからこそ、真に価 遠距離通勤や週末セカン値ある情報は、これまで ドハウスなど、土地の魅力とは次元を変えた、人の 力がずいぶん違って見え行き来やつながりの中 にくるのではないかとある」という点が理解さ いう思いが浮かぶ。

鳥取の未来を拓くに 「新たなアイデアを生 は、新幹線や高速道路はみ出すための人と人との もとより、自動運転シス 出会いが、成長の源泉」 テムやビジネスシエッ(国交省2050年研究 ト、リニア鉄道、あるいは空飛ぶクルマなど、目念)とか「イノベーションを生 下進行中の技術進歩を積場」と、ノウハウや専門 極的に先取りしていくこ家が集まる『本場』との とも考えてみてよいので行き来が大事」(孫泰蔵 はないだろうか。氏)という訳だ。U-IJ (日本銀行鳥取事務所長)